



# 知っていますか？

## 「女性差別撤廃条約」

女性差別撤廃条約とは、正式名称を「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」と言い、1979(昭和54)年に第34回国連総会において採択され、日本では1985(昭和60)年に締結、1986(昭和61)年に施行されました。

条約には、政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他すべての分野において、女性の性に基づく排除や制限、さらには区別することも「女子に対する差別」にあたると定義し、締約国に対し、差別の撤廃のために適当な措置をとることを求めています。

日本では女性差別撤廃条約の批准に向けて、「国籍法改正」「家庭科の男女必修」「男女雇用機会均等法の制定」の3つの改正が行われました。



1984年(昭和59年)

### 「国籍法改正」

国際結婚で生まれた子どもが日本国籍を取得できるのは父親が日本国籍の場合に限られていましたが、母親が日本人の場合も日本国籍を取得できるようになりました。



中学校 1993年(平成5年)  
高等学校 1994年(平成6年)

### 「家庭科の男女必修」

家庭科は女子生徒のみが必修科目になっていましたが、家庭科が男女共通の必修科目になり、「家庭一般」「生活一般」「生活技術」の中から1科目を選択して学ぶスタイルに変更されました。



1985年(昭和60年)

### 「男女雇用機会均等法」

そもそも日本の労働基準法では、働く条件についての男女平等の規定自体がありませんでしたが、男女雇用機会均等法が制定され、雇用や昇格その他あらゆる待遇の面で、男女が同等となりました。



女性差別撤廃条約の大きな特徴は、公の生活はもちろん、私生活においても女性の権利を保障している点と、法律や規則上の差別だけでなく実際の生活の中での差別を禁止している点です。暮らしの中で、女性だからという理由で男性と区別されたり、昔からの伝統や慣習による区別であっても、許されることがあってはならないことが、女性差別撤廃条約の締結によって保障されたこととなります。

条約批准国は、2021(令和3)年10月時点で189カ国で、世界各国で、男女共同参画社会の実現に向けての取り組みが進められています。

～3月だんだんカフェ～

3月16日(土)

10:00～12:00

うきは市民センター(図書館)2階  
喫茶あひるの子 カフェスペース隣

予約不要  
出入り自由

無料託児有

(生後4カ月～就学前のお子さま)

※1週間前までに要予約。

ゆっくりお茶しながら、  
おしゃべりしませんか？

「子育てが  
うまくいかない…」

「毎日、何だかつらい」

「だれかと  
話がしたい」



# だんだん だより

性の多様性 (LGBTQ+) について考えよう!シリーズ②

## ドラマにみる 性の多様性

前回、LGBTQ+ についての大まかな説明を載せましたが、まだまだ、性的少数者 (性的マイノリティ) の方が自分らしく生きていける優しい世の中にはなっていません。

そこで今回は、テレビドラマの中でみる LGBTQ+ から、自分の意識を変えていく “きっかけ” にできないかと3つのドラマを紹介します。

### おっさんずラブ

俳優の田中圭さんが主演を務める「おっさんずラブ・リターンズ」が1月からスタートしました。「おっさんずラブ」は2018年の連続放送後に“ロス”に陥る人が出るほど、社会現象をおこした大人気ドラマです。春田 (田中圭さん) と牧 (林遣都さん) が男性同士で恋愛感情を抱き、人を好きになることで幸せになったり、切なくなったり、悩んだり…を自然に演じている素敵な番組です。1月からは、それがさらにパワーアップして、二人の結婚からドラマが始まります。

### きのう何食べた?

料理上手のシロさん (西島秀俊さん) と恋人で人当たりのいいケンジ (内野聖陽さん) の同棲生活に、ゲイの仲間が加わってのドラマです。2019年に Season1 が放送され人気を博しました。2023年には、待望された Season2 で、4~5年経った二人の続編が放送されました。二人の職場での出来事や、それぞれの家族とのやりとりが、とても自然で心温まるドラマです。

### 作りたい女と食べたい女

少食だが料理好きの野本さん (比嘉愛未さん) と、同じマンションに住む食べるのが大好きな女性春日さん (西野恵未さん) との、食事を通して深まっていく二人の関係を描いたストーリーです。シーズン2に入り、二人がお互いへの恋心に気づき、恋愛関係に発展していきます。「女性は料理を上手に作る」や「女性は少食だ」など、アンコンシャスバイアス (無意識の思い込み) についても考えさせられるドラマです。

どのドラマも、生きていく中で好きになった人の性別が、男であれ女であれ、沸き出る感情は変わらないということが伝わってきます。これらのドラマの視聴率の高さから、多くの人に愛されているということが判ります。これは、LGBTQ+ への関心が高まってきているからというだけでなく、このドラマが特別なことではなく、自然なこととして受け入れられているからではないでしょうか。

〈P2~3に関する問合せ〉

うきは市男女共同参画センター だんだん  
☎77-2661